

LMI 世界宣教会近藤恵宣教師会計報告 (09年7月～9月)

		7月	8月	9月
収入	近藤恵宣教師指定	273,500	197,895	232,400
	雑収入	0	252	0
	前月繰越金	1,690,614	1,922,834	2,099,341
	合 計	1,964,114	2,120,981	2,331,741
支出	近藤恵宣教師支援金	0	0	341,962
	年金・支える会経費	14,280	2,640	10,354
	海外旅行保険	0	0	196,110
	LMJ事務局費	27,000	19,000	23,000
	次月繰越金	1,922,834	2,099,341	1,760,315
	合 計	1,964,114	2,120,981	2,331,741

※9月の海外旅行保険は10月から2年分の保険料

献金者お名前

(教会) 泉キリスト教会、岩井キリスト教会、牛久福音キリスト教会、大泉聖書教会、大磯キリスト教会、神栖めぐみキリスト教会、かもい聖書教会、川鶴チャペル、自治医大前キリスト教会、下館キリスト教会、湘南ライフタウンキリスト教会、白岡福音キリスト教会、菅生キリスト教会、都賀キリスト教会、筑波キリスト教会、橋本キリスト教会、蓮田キリスト教会、東村山キリスト教会、日立福音キリスト教会、本郷台キリスト教会、前橋キリスト教会、水戸下市キリスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、谷田部キリスト教会、横浜永谷キリスト教会、横浜緑園キリスト教会、JECA北関東地区夏期聖会

(個人) 池田美栄子、池田百合子、井上稲子、御澤雅江、香川聖恵、國井昭男、倉持芳、栗田カツ子、小池宏明、西條晴美、斉藤真木子、芝田寛二・正子、染矢睦子、高橋洋子、武田香、立石哲・早苗、田中美智子、中井靖子、中村充・みちる、長谷川昭雄、ヘーゲレ・ディーター、本田恵、光畑京子、宮岡佳子、湯澤邦夫、自治医大前キリスト教会個人、匿名(敬称略) 尊い献金をありがとうございました。

編集後記

恵宣教師がバングラデシュに旅立ってから1年が経ちました。留守を守る身としては、長かったように感じます。恵宣教師は今月半ばから、いよいよ本格的に医療活動を始めました。私たちの支援も主によってますます熱くしていただきましょう。(ひ)

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。(1ペテロ5:6)

連絡先: 0329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1
近藤恵宣教師を支える会
(自治医大前キリスト教会内)

Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/meg/>
E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込

口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会

近藤恵宣教師ニュースレター NO.10

2009. 10. 18

発行: 近藤恵宣教師を支える会



神様の手の中の
小さなえんぴつ

わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のよう
なものです。神が考え、神が書くのです。
鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだ
けです。
(マザー・テレサ)



「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。
しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」
(中略) そこで、イエスはパンを取り感謝をささげてから、すわっ
ている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、
彼らにほしいだけ分けられた。(ヨハネの福音書6:9、11)

愛する兄弟姉妹のみなさま、お元気ですか？日本はもう秋まっさかり
でしょうね。バングラデシュは季節としては、初秋のはずですが、蒸し
暑さが相変わらず続いていて、4月からずっと真夏という感じです。早
いもので、10月15日でバングラデシュに来て1年になります。この1年
の間私は、バングラデシュの人たちにとっても良くしてもらったと思いま
す。さて私は彼らに上記のみことばの少年のように、自分の持っている
少しのものをささげることができるでしょうか？

霊 的 枯 渴 状 態

6月中旬から8月下旬まで、LAMB ^{ラ ム} Hospitalとディナジプールを行ったり来たりする生活をしていました。LAMBでは、常勤のボブ先生がいない間、バングラデシュ人の若い医師とスコットランドから1か月間来てくれた医師と一緒に働きました。日本で経験したことのない症例に次々にぶつかり、うろたえながらもとても良い経験ができたと思います。

ダッカに8月下旬に帰ってきてからは、また、語学学校に通いました。たまにダッカに帰ってくると、お買い物のができたり、お店でアイスクリームを食べたりと楽しいことも多いのですが、だんだん学校に通うだけの生活には飽きてきます。暑さの中、「何だか疲れてしょうがないの」という声がいたるところから、聞こえてきます。こういう状態は、霊性にも影響してきます。聖書を読んでも新鮮味がありません。霊的枯渴状態です。

こんな中、主は私にある韓国家族との交わりを与えてくださいました。この家の夫人とは、去年の12月、教会で出会いました。彼女は、最初からとても私に親切にしてくれました。でも行っている教会が違ったので、交わりの機会があまりないまま、時が過ぎてしまいました。この家族が10月に帰国するというので、9月下旬にお宅に招いていただきました。おいしい韓国料理にととても満足しました。その後、ご主人がチェロで讃美歌をたくさん弾いてくださいました。魂にやすらぎが戻ったような夜でした。

ご主人はKOICA（JICA日本国際協力機構と同じような韓国の組織）のお医者さんですが、ご夫婦ふたりとも、ダッカ大学で聖書の学びを学生たちとしているということでした。今回は、KOICAの一員として来ていますが、将来、主の働き人としてまたバングラデシュに来ることを望まれています。何年か後、このご夫妻とまた再会でできればいいなと思っています。

お腹すいてる。何かちょうだい！

バングラデシュで暮らしていて困ることは、①蚊 ②人々が道に吐き散らす痰 ③外国人を見るとすぐ寄って来る物乞いの大人やこどもたち、でしょう。ここにいる外国人の共通認識として、お金はあげないというのがあります。なぜなら、子どもたちを使ってお金を集めさせている人がいるということ、仕事をしないで物乞いで暮らしていこうとする人たちの悪循環は断ち切るべきだという理由などからです。それでも、いつも悩みます。私は考えた末、バッグにピーナッツのお菓子の小袋を入れておいて、寄って来た子どもたちにあげるようにしています。そして「イッシュョールケ、

ドンノバッド ダオ（神様にありがとうって言うのよ）」と言っています。イスラム教の神様は、アッラーですから、区別しているわけです。

バングラデシュの北東部にあるスリモンゴルの駅で、ダッカ行きの列車を待っている時に男の子がやってきました。彼にはチャナチュー（バングラデシュのピリ辛のスナック）をあげました。そうしたら、次は、6人のこどもたちと赤ちゃんを連れた女の人がやって来ました。仕方がないので、私のとっておきのチョコレートビスケットと、お昼のためのパンをあげてしまいました。もう自分のための食べ物はありません。駅の売店で、小さなビスケットを買いました。またまた男の子がひとりやってきました。「お腹がすいている。何かちょうだい」「わかった。半分あげる」と言って、買ったばかりのビスケットを半分あげました。私には、小さなビスケット5枚が残りました。

「すべての人を助けることはできない」とよく外国人は言いますし、私もそう思います。でもだからといって、差し出さないのではなく、自分のもっている少しのものを差し出した時、主がそれを何倍にもして用いてくださるのだと信じます。もうすぐ、LAMB ^{ラ ム} Hospitalに行きます。私という小さなものを用いても、主は良いことをなさるのだと信じて出発しようと思います。

★10月12日にLAMB Hospitalのあるパルバティプールに来ました。住宅の準備などをして、10月15日から病院で働いています。今働いているボブ先生は、しばらく一緒に働いてくれると思います。

Prayer request

1. LAMB Hospitalでの働きのために。言葉の問題、対象とする疾患の違い、病院のシステムの違いなどで苦勞すると思います。
2. ベンガル語の上達のために。まだ簡単な会話しかできないので、詳しい症状のききとりや、患者さんへの説明、さらには、福音を伝えるには、まだまだのレベルです。
3. ビザの延長のために。
4. 母と姉の救いのために。
5. 派遣教会の自治医大前キリスト教会のために。